

—教科—
社会・総合的な学習の時間
実施時間
2時間

環境・福祉の学習活動で活用できる! スクールゾーン 冬みちマップ製作体験

学年・単元 4年:[社会科]第7単元「くらしを守る」→小単元3「雪とくらす」
3~6年:[総合的な学習の時間]地域の安全を取り扱う内容

学習効果UPポイント

- 単元の導入で利用すると、雪道にはたくさんの危険があることを実感できる。
- 出来上がったものをどこに掲示するかを先に伝え、目的意識をもたせるとやる気UP!
- 総合的な学習の時間と関連させて行くと、より効果的に学習できる!

1 背景と取組のねらい

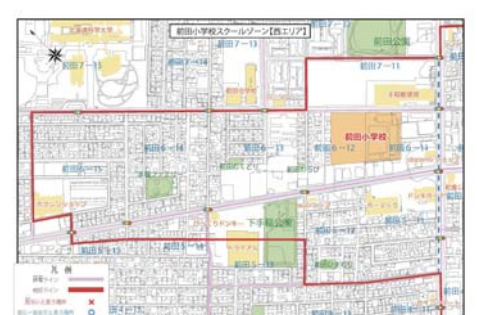
札幌の降雪時の路面状況は天候等の影響を受け日々刻々と変化する。気温、日照時間、風、または自動車の走行によって、圧雪、凸凹、わだち、ツルツル、ザクザクなどの路面状態が発生する上に、除雪で道路に積み上がる雪山が視界を遮る。そのため歩行者は舗装面が露出した夏場とは全く違う条件の中、細心の注意を払いながら通行する必要がある。

ねらい

- ① 普段何気なく歩いている冬みちを「危険」、「安全」という視点で確認することで、雪による道路状況の変化を再認識し、冬みちの特性を理解してもらい安全意識を高める
- ② 自分の意見を発言し、グループで意見集約して一つのマップを作成することで共同作業における合意形成のプロセスを体験することができる
- ③ マップ作成をグループで行うこと、他グループの発表を聞くことで自分が気づかなかったポイントを知ることができ情報共有が図られるとともに、同じ箇所でも除雪状況や天候によって路面状況が変わるということにも気づききっかけとなる
- ④ 作成したマップを学校に掲示することで、他学年や学校を訪れる地域の人も見ることができ、冬みちの特性、安全意識についてより広く周知できる

2 実施内容

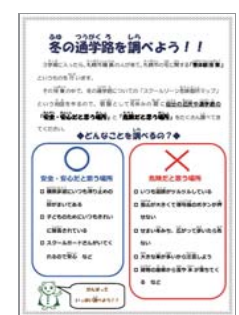
(1) 準備するもの



スクールゾーンマップ
(A1用紙 各グループ1枚配布)



備品類
(ペン、付箋等)



事前配布資料
(冬の通学路を調べよう!!)

(2) 実施の流れ

- 事前**
- ・校区のエリア分けとエリア別に児童のグループ分けをする。
 - ・冬休みの宿題として冬みちの危険だと思う箇所、安全だと思う箇所を調べておく。
(「冬の通学路を調べよう!!」と各エリアの書き込み用マップを生徒に配布)
- 当日**
- ・各グループにA1のマップと書き込み用のペンと付箋を配布する。
 - ・書き込み方のルールを説明し、製作作業に進む。
 - ・グループ内で発表者と発表内容(代表的な安全・危険な箇所を各1つずつ程度)も決めてもらう。

進め方に戸惑っていたり書き込み方が理解できていない場合は補助する。

●時間配分:45分(参考)



マップ製作の様子

- 事後**
- ・グループごとに前に出て発表。
 - ・発表後にはその場で講評を行い、そのグループのマップの特徴や気づいた点を要約して説明する。



発表の様子

オプションメニュー

作成したマップを回収し、1枚のマップに集約し編集して完成させたものを後日学校側へ配布する。

スクールゾーンマップ作成

〔Aエリア〕 〔Bエリア〕

〔Bのフセンには安全・安心と思う内容を書こう!〕

スクールガードの人がいるから安心

ツルツルして危険

〔Bのフセンには危険だと思う内容を書こう!〕

目的

登下校する児童に自分たちの通学路や家の周辺の道路の危険だと思う箇所または安全だと思う箇所を知ること、冬みちの特性や安全意識を高める。また、配布したマップは、校内で掲示や、スクールゾーン実行委員会で利用してもらう。

注意ポイント

- グループ数が多くなると発表に時間を要するので、児童数が多い場合は時間配分の工夫が必要。場合によっては2コマで実施する、1学年を分けて実施する等の検討が必要である。
- 授業の性質上、マップの情報の正確性は問わないが、明らかに間違った情報を書き込んでいる場合もあるので編集時にはしっかり精査する必要がある。